

第30回

わたしたちの美濃焼を楽しむ

ー400年前の最新流行のデザイナー

今年で開館44年を迎える美濃陶磁歴史館は、新しい博物館への建て替え計画が進んでいるため、あと1年ほどでいったん休館となる予定です。そこで、今年度の企画展は、当館が44年間で収集してきた収蔵品を振り返る展覧会をシリーズで開催します。第1回は当館の主要な収蔵品である「美濃桃山陶」をテーマに展示を行います。

「美濃桃山陶」は、今から400年程前に美濃でつくられた茶陶のことをいい、黄瀬戸、瀬戸黒、志野、織部という種類があります。志野や織部というと、陶器があたりまえの土岐市では、古臭いなあとか、あまり興味ないなあと思われる方も多いかもしれません。

でも、改めてよく観てみると、どれもデザインが斬新で、今から400年も昔に、この土地の陶工たちが、よくこんなものを生み出すことができたなあと驚かされます。

当時、京の都を中心に「茶の湯」が流行し、美濃桃山陶が一世を風靡（ふうび）しました。美濃桃山陶は、京都の三条通りにあった茶陶を専門に扱う商店の店先に並べられ、流行に敏感な人たちが、それらを買いたい求める様子が目に浮かびます。その様子は、今でいえば、インターネットやSNSで発信され話題になった商品を多くの人が買い求めることと重なります。

美濃桃山陶は、400年前の最新流行のデザインだったという視点でみてみると、少し興味が湧いてこないでしょうか？美濃桃山陶の特徴はいろいろありますが、今回の展示では形に着目しています。ロクロで成形された陶器の形は円形が一般的ですが、美濃桃山陶では、驚くほどたくさん形の生み出されました。400年前の暮らしを彩った器の数々。どうぞ、肩の力を抜いて楽しんでみてください。

クイズ

美濃桃山陶を上と横から見た写真です。どれとどれがつながるでしょうか？



答えは、現在開催中の「○△□ 美濃桃山陶の形展」で見つけてください！

イベントのご案内



開館44年収集の軌跡Ⅰ  
「○△□ 美濃桃山陶の形展」

同時開催「窯道具の使い方」  
6月10日(土)～9月3日(日)

関連イベント

プラ板で美濃桃山陶キーホルダーをつくろう！(体験無料)

日時 8月11日(金・祝)  
午前10時～午後4時  
※体験時間15分程度

